

和歌山工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	わかやま学	
科目基礎情報							
科目番号		0027		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		生物応用化学科		対象学年	2		
開設期		通年		週時間数	1		
教科書/教材		資料は適宜配布、提示する					
担当教員		濱田 俊彦,川崎 有里紗					
到達目標							
文化と産業の観点から和歌山地域への特色を理解を深めるすることができる。アクティブラーニングにより未来の「わかやま」を提案することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1		文化と産業の観点から和歌山地域の特色を理解できる		文化と産業の観点から和歌山地域の特色をおおむね理解できる		文化と産業の観点から和歌山地域の特色を理解できない	
評価項目 2		アクティブラーニングにより未来の「わかやま」を提案することができる		アクティブラーニングにより未来の「わかやま」を提案することができる おおむねできる		アクティブラーニングにより未来の「わかやま」を提案することができない	
学科の到達目標項目との関係							
A D							
教育方法等							
概要		和歌山高専が置かれる和歌山地域の文化の特色を歴史的側面と同時代的側面に注目して多面的にとらえ、和歌山の文化や産業の現在を学ぶことで、和歌山文化の伝統と問題点を踏まえた上での、ある授業概要 べき未来としての新たな「わかやま」を提案する。					
授業の進め方・方法		実施にあたっては講義形式の授業のほかに、バスを利用した実地見学、アクティブラーニングによるプレゼンテーションも展開し、主体的実践的な授業形式とすることで、あわせて学生たちの問題発見・解決能力の育成に資する。					
注意点		(COC) 事前学習：和歌山県の特徴(地勢、産業、歴史、文化など)と問題(地域文化活性化など)に興味を持つ。事後学習：和歌山の文化と産業に継続して関心を持ち、授業で得た知見をさらに主体的に発展させる。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション(「わかやま学」の授業をする意味)		「わかやま学」の授業をする意味を理解する		
		2週	和歌山の歴史と文化		和歌山の歴史について理解する		
		3週	和歌山の地形		和歌山の地形について理解する		
		4週	和歌山の文学		和歌山の文学について理解する		
		5週	和歌山の自然		和歌山の自然について理解する		
		6週	フィールドワーク 歴史・文化について現地にてフィールドワークを実施 (1日4時間分)		歴史・文化について現地にてフィールドワークを実施 (1日4時間分)		
		7週	プレゼンテーション準備 1		プレゼンテーションに向けて班ごとに準備する		
		8週	プレゼンテーション準備 2		プレゼンテーションに向けて班ごとに準備する		
	2ndQ	9週	プレゼンテーション準備 3		プレゼンテーションに向けて班ごとに準備する		
		10週	プレゼンテーション準備 4		プレゼンテーションに向けて班ごとに準備する		
		11週	プレゼンテーション・クラス代表選考		他の班のプレゼンテーションを視聴する		
		12週	合同プレゼンテーション		他のクラスのプレゼンテーションの発表を視聴する		
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					

		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	
分野横断的 能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
評価割合						
		プレゼンテーション	提出物	合計		
総合評価割合		50	50	100		
配点		50	50	100		